

独立行政法人  
国立病院機構佐賀病院

# 医師臨床研修プログラム

平成30年度版

国立病院機構佐賀病院臨床研修管理委員会

# 国立病院機構佐賀病院医師臨床研修プログラム

## (1) 研修目的及び目標

医療という社会的重要性、又公共性の高い職域の中で臨床研修は個人のみならず社会的必要性の強いものである。その社会的必要性に答えるべく、医師個人の技術向上ということを超えてすべての臨床医に求められる基本的診療に必要な知識、技能を修得し、チーム医療の一員として小児から高齢者まで患者の持つ問題を心理的社会的側面を含めて全人的に捉えて解決する能力を身につけることを目標とする。

### ○国立病院機構佐賀病院の概況

当院は佐賀市の中心部より北西約2km、JR佐賀駅より北方約1kmの国道34号線に面した位置にあり、292床15標榜診療科、定員医師現員45名、急性期型総合病院で、がんおよび成育専門医療施設として位置づけられている他、年間5000人以上の救急患者と1000人以上の救急車搬送患者を受け入れ、2次救急病院としての機能を担っています。

### ○国立病院機構佐賀病院の基本理念

赤ちゃんからお年寄りまで、患者さんにやさしい病院、家族に対しても思いやりのある病院、そして質の良い医療が提供できる病院を目指します。

### ○初期臨床研修における当院の特徴

日常診療で遭遇することの多い疾患が数多く経験でき、かつそのほとんどが院内で解決できる診療体制をとっていることが当院の特徴です。中規模病院で各診療科が有機的に機能しながら診療していますので何でも相談でき、又問題解決が早く、例えば内科の研修をしながら外科手術を学んだり、小児科を研修しながら産科を学ぶといった診療科を横断するような実地医療を経験することにより実践的医療とチーム医療の心がけを身につけることができます。また、24時間救急患者搬送を受け入れる体制をとっており、救急医療も年間を通じて研修診療科を問わず研修でき、将来の志望科の研修に十分備えられる様、選択科目の期間を比較的長く設定しましたので、3年目以降の研鑽に大いに役立てる事ができます。

## (2) 研修方式

①研修期間は原則として2年間とする。

必修科目：内科（救急、循環器内科を含む）6ヶ月、  
救急3ヶ月、外科3ヶ月、地域医療1ヶ月  
とする。

選択科目：内科、外科、精神科、放射線科、麻酔科、小児科、産婦人

科、循環器科、整形外科、形成外科、泌尿器科、皮膚科、地域医療より選択し合計11ヶ月研修する。

※ 選択科目のうち、到達目標に掲げている症例等の研修分野を選択しなかった場合は、選択に関わらず研修期間中に到達目標を達成するよう適宜研修を行う。

②主病院以外での研修

- 独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター（選択）  
選択科目で精神科を2ヶ月選択した場合
- 長崎県五島中央病院附属診療所奈留医療センター（必修・選択）  
必修科目の地域医療を1ヶ月及び選択科目で地域医療を選択した場合
- 満岡内科消化器科医院（必修・選択）  
必修科目の地域医療を1ヶ月及び選択科目で地域医療を選択した場合
- 佐賀大学医学部附属病院（選択）  
必修科目の救急（麻酔科）3ヶ月においては期間内に一定期間研修可能  
選択科目においては全ての診療科において研修可能
- 地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館（選択）  
救急救命センター、他全ての診療科を研修できる。
- 医療法人天神会 新古賀病院（選択）  
循環器科を1年目の内科研修中に2週間の見学（希望者）、選択科目において循環器を選択した場合1ヶ月以上研修することもできる。
- 独立行政法人国立病院機構 長崎川棚医療センター（選択）  
呼吸器疾患、神経難病疾患を1ヶ月以上研修することもできる。
- 長崎大学病院（選択）  
選択科目においては全ての診療科において研修可能

以上スーパーローテート方式とし、ローテート方法は研修医本人の希望を考慮のうえ臨床研修委員会で決定する。

○研修スケジュール（例）

例1) 基本コース

|     | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 1     | 2     | 3     |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-------|-------|-------|
| 1年目 | 内科 | 内科 | 内科 | 内科 | 内科 | 内科 | 外科 | 外科 | 外科 | 救(外科) | 救(外科) | 救(外科) |
| 2年目 | 地域 | 選択 | 選択 | 選択 | 選択 | 選択 | 選択 | 選択 | 選択 | 選択    | 選択    | 選択    |

例2) 成育重視コース

|     | 4  | 5  | 6  | 7   | 8   | 9   | 10 | 11 | 12 | 1     | 2     | 3     |
|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-------|-------|-------|
| 1年目 | 内科 | 内科 | 内科 | 内科  | 内科  | 内科  | 外科 | 外科 | 外科 | 救(外科) | 救(外科) | 救(外科) |
| 2年目 | 地域 | 選択 | 選択 | 小児科 | 小児科 | 小児科 | 成育 | 成育 | 成育 | 成育    | 成育    | 成育    |

※ 成育は産科もしくは小児科（必ず産科もしくは小児科を3ヶ月以上研修）

例3) 総合医／家庭医重視コース

|     | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10    | 11    | 12    | 1  | 2  | 3  |
|-----|----|----|----|----|----|----|-------|-------|-------|----|----|----|
| 1年目 | 内科 | 内科 | 内科 | 内科 | 内科 | 内科 | 救(外科) | 救(外科) | 救(外科) | 外科 | 外科 | 外科 |
| 2年目 | 地域 | 選択 | 選択 | 整形 | 整形 | 整形 | 放射線   | 放射線   | 放射線   | 選択 | 成育 | 成育 |

※ 成育は産科もしくは小児科（必ず産科もしくは小児科を3ヶ月以上研修）

なお、救急医療については本院での研修期間中はローテーション科を問わず年間を通じ常に研修することが可能です。

⑤他の臨床研修病院での研修との関連

大学病院など他の臨床研修病院での研修を行っている研修医においても本プログラムの中に組み入れることが可能です。

⑥プログラム内の変更について

研修する科や期間を変更することは原則としてできませんが、研修医が希望した場合は選択科目の期間内であれば研修医の習得度や適正を勘案し臨床研修管理委員会の合意の上で可能です。

⑦各診療科の主な研修内容

- 内科 : 一般臨床医として必要な基本的面接法、病歴聴取、身体所見の取り方、及びその記載方法を学び、病棟においては患者の検査、処方、栄養管理等を含め、頻度の高い疾患を中心に診断と治療法を学ぶ。
- 外科 : 各種疾患（手術症例：400例前後）に対する診断、手術適応および周術期の全身管理を習得する。すなわち、輸血量法、各種ドレーン管理、皮膚切開、結紮、縫合、消化管吻合といった基本的な手術手技を習得する。
- 救急医療 : 当院では一次・二次救急の体制をとっているが、その中で基本的な知識や手技の習得のための研修を行う。即ち、静脈確保、心マッサージ、救急救急薬剤の投与方法、除細動、呼吸管理などのプライマリケアを研修する。
- 麻酔科 : 麻酔に関する呼吸循環管理を中心とした技術と知識の習得。腰椎麻酔、硬膜外麻酔、全身麻酔の実際で気管内挿管の手技を含め、麻酔の導入、維持、

覚醒法を研修する。

- 小児科 : 一般小児医療に際し家族(母親)の話を誠実に聴取するマナーを身につけ、頻度の高い呼吸器・消化器の感染症、気管支喘息、熱生痙攣等を数多く経験し、小児疾患の特性を理解し、病歴や身体所見の評価を的確に行い初期治療を習得するとともに、トリアージのトレーニングを行う。
- 新生児医療 : 正常分娩、異常分娩に数多く立ち会い、新生児仮死などの病態を知り、適切な蘇生術を習得する。また、正常新生児を定期的に診察し、足底から採血を行い、成熟新生児にしばしば合併する新生児黄疸、低血糖症、多血症の診断と治療方針について習得する。
- 循環器科 : 指導医の下で循環器疾患の受け持ち医となって基本的な診察と検査を自ら行い、診断と治療に必要な知識と技能を修得する。2年目に希望者は選択科目循環器科として新古賀病院にて、侵襲的な検査、治療及び心臓血管外科手術に参加し、心疾患の診療に十分対応できるように診断、治療、救急処置についての必要な知識と技能を研修する。
- 精神科 : 将来の専門性にかかわらず、医学・医療の社会的ニーズを認識しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する精神科関連の病気や病態に適切に対応できるよう、プライマリケアの基本的な診療能力(態度、知識、技能)を身につける。
- 形成外科 : 顔面、手の基本的知識や診察法、X線の読影の習得。軽度の外傷に対する局所麻酔や伝達麻酔と創傷処置の手技、及び熱傷の診断と処置法の研修。また、創部の消毒やガーゼ交換、包帯法の実践。さらに、皮膚腫瘍や軟部腫瘍、皮膚潰瘍に対する知識と外科的治療を学ぶ。
- 泌尿器科 : 泌尿器科一般の外来が出来るような、診察法とカルテ記載法を学ぶ。頻度の高い代表的な泌尿器科疾患(膀胱炎、前立腺炎、尿路結石、前立腺肥大症、膀胱癌、腎癌、前立腺癌など)についての診断法、治療法について学び、泌尿器科の一般的な処置(導尿、腹部エコー、検尿など)が行える事を目的とする。
- 整形外科 : 運動器救急疾患・外傷(骨折に伴う全身的・局所的症状等)に対応できる基本的診療能力を修得する。運動器疾患の正確な診断と治療を行うためにその身体所見をとりX線写真の読影等基本的手技を修得し、必要事項(病歴、身体所見、検査結果、画像、インフォームド・コンセントの内容等)を診療録に正確に記載できる能力を修得する。
- 産科 : 正常妊娠の診断及び妊婦検診を習得し、正常分娩の管理、介助を修得する。また、産科手術の助手が出来るようになり、産科救急疾患の特殊性を理解する事を目標とする。
- 婦人科 : 女性内外性器の解剖、性機能に関する女性ホルモン動態を理解し、婦人科特有の診察法を修得する。また、婦人科手術の助手ができるようになる事を目標とする。
- 皮膚科 : 皮膚病変の形態的な分類と、症状に応じた適切な外用薬の選択、実際の外科の手技を習得する。湿疹病変と感染症病変の鑑別に要する最も基本

的な検査である真菌検査の手技も習得する。

放射線科：各種検査法（超音波検査、CT検査、MRI検査、RI検査、消化管造影検査、血管造影検査等）の適応、手技の習得や使用装置の原理、使用法、検査に用いる薬剤による副作用発現時の処置、検査結果の評価（フィルムの読影法）を習得する。

地域医療：僻地、離島医療について、その医療の実態のみならず社会的側面についても十分理解し、特に病病・病診連携についてそのシステム等を十分理解し実践する。また地域保健、健康増進等社会福祉の面についても十分理解し習得する。

消化器内科：胃癌、消化器潰瘍、食道静脈瘤等の主な消化器疾患の病態生理と診断について理解を深め、診断に必要な検査法を経験、理解する。

消化器外科：無菌操作に必要な各種の滅菌・消毒法、簡単な局所麻酔と外科手技が安全にできるために必要な基本的知識・技術・態度を身につけると同時に、外科手術に第2、3助手として参加することにより手術の合理性及び結果を評価できる基本的知識・技術・態度を身につける。

救急科：救急諸症の病態を理解し、適切ですみやかな処置を講じるために必要な基本的知識・技術・態度を身につける。更に二次救急処置に関する理解を、ACLS、BLSを通じ深める。

### （3）管理運営

臨床研修プログラムは臨床研修管理委員会によって管理運営される。プログラムの責任者は外科医長とし、プログラム参加施設は下記の通りである。

|              |  |
|--------------|--|
| 基幹型臨床研修病院    | ：独立行政法人国立病院機構 佐賀病院   |
| 大学病院（共同臨床研修） | ：佐賀大学医学部附属病院<br>：長崎大学病院  |
| 協力型臨床研修病院    | ：独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター<br>：医療法人天神会 新古賀病院<br>：地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館<br>：独立行政法人国立病院機構 長崎川棚医療センター |
| 臨床研修協力施設     | ：長崎県五島中央病院附属診療所奈留医療センター<br>：満岡内科消化器科医院   |

#### 臨床研修管理委員会

臨床研修管理委員会は研修医の臨床研修目標の達成に責任を持つ  
研修医の採用選考、研修カリキュラムの検討、指導医の決定を行う  
臨床研修に関する各施設、診療科への連絡等を行う

## 臨床結果の評価と認定の指導を行う

### 臨床研修管理委員会の構成

|         |       |                          |     |                |
|---------|-------|--------------------------|-----|----------------|
| 委員長     | 島 正義  | 佐賀病院院長                   | 内科  | 長崎大学医学部昭和54年卒  |
| 副委員長    | 山口淳三  | 佐賀病院副院長                  | 外科  | 長崎大学医学部昭和57年卒  |
| 研修プログラム |       |                          |     |                |
| 責任者     | 円城寺昭人 | 佐賀病院外科部長                 |     | 長崎大学医学部昭和60年卒  |
| 委員      | 高柳俊光  | 佐賀病院第一診療部長               |     | 長崎大学医学部昭和58年卒  |
| 委員      | 江島英理  | 佐賀病院第二診療部長               |     | 長崎大学医学部昭和60年卒  |
| 委員      | 尾関伸一郎 | 佐賀病院循環器科医長               |     | 長崎大学医学部昭和59年卒  |
| 委員      | 鈴木裕一  | 佐賀病院形成外科医長               |     | 産業医科大学医学部平成6年卒 |
| 委員      | 高木紀人  | 佐賀病院泌尿器科医長               |     | 佐賀医科大学医学部平成2年卒 |
| 委員      | 野見山亮  | 佐賀病院第三診療部長               |     | 長崎大学医学部昭和57年卒  |
| 委員      | 上田直行  | 佐賀病院第四診療部長               |     | 久留米大学医学部昭和52年卒 |
| 委員      | 岡田秀樹  | 佐賀病院放射線科医長               |     | 長崎大学医学部昭和63年卒  |
| 委員      | 前川律子  | 佐賀病院看護部長                 |     |                |
| 委員      | 野副和行  | 佐賀病院事務部長                 |     |                |
| 委員      | 雄山元司  | 佐賀病院管理課長                 |     |                |
| 委員      | 平川奈緒美 | 佐賀大学医学部附属病院麻酔・蘇生学        | 准教授 |                |
| 委員      | 川崎友裕  | 新古賀病院循環器部長               |     | 大分医科大学昭和63年卒   |
| 委員      | 橋本喜次郎 | 肥前精神医療センター副院長            |     | 九州大学医学部昭和60年卒  |
| 委員      | 藤田尚宏  | 佐賀県医療センター好生館総合教育センター長    |     |                |
| 委員      | 宮下光世  | 長崎川棚医療センター院長             |     |                |
| 委員      | 津田俊彦  | 長崎県五島中央病院附属診療所奈留医療センター院長 |     |                |
|         |       | 自治医科大学医学部昭和54年卒          |     |                |
| 委員      | 下川 功  | 長崎大学大学院教授                |     | 長崎大学医学部昭和57年卒  |
| 委員      | 鶴田満浩  | 鶴田内科院長                   |     | 長崎大学医学部昭和53年卒  |
| 委員      | 満岡 聰  | 満岡内科消化器科院長               |     |                |

### 指導体制

原則として研修開始時に臨床研修管理委員会において各研修医に対する各診療科の研修指導責任者を決定し一貫した指導、評価を行う。ローテーション方法は研修医本人の希望も考慮し決定されるが各科研修開始時に各科研修指導医（あるいはそれに相当する臨床経験を有する医師）が責任を持って実地指導を行う。

### 指導医リスト

#### ① 独立行政法人国立病院機構 佐賀病院 指導医リスト

島 正義 院長 長崎大学（S54）消化器、内科一般  
日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医  
日本消化器内視鏡学会認定医、日本肝臓学会専門医

|       |  |
|-------|--|
| 山口淳三  | 副院長 長崎大学 (S57) 内分泌乳腺外科、消化器外科<br>乳腺専門医 日本外科学会指導医、日本消化器外科学会認定医                             |
| 江島英理  | 第二診療部長 長崎大学 (S60) 内分泌・代謝内科<br>日本内科学会認定総合内科専門医、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医                           |
| 尾関伸一郎 | 循環器科医長 長崎大学 (S59) 循環器一般<br>日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医  |
| 高柳俊光  | 第一診療部長 長崎大学 (S58) 新生児、小児科一般<br>日本小児科学会専門医  |
| 円城寺昭人 | 外科部長 長崎大学 (S60) 外科一般<br>日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 |
| 鈴木裕一  | 形成外科医長 産業医大 (H6) 形成外科一般<br>日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医<br>日本創傷外科学会専門医 日本頭蓋顎顔面外科学会専門医             |
| 野見山亮  | 第三診療部長 長崎大学 (S57) 産婦人科一般、周産期医療<br>日本産婦人科学会専門医、日本超音波学会専門医                                 |
| 上田直行  | 第四診療部長 久留米大学 (S52) 麻酔科<br>麻酔科指導医・専門医認定医  |
| 岡田秀樹  | 放射線科医長 長崎大学 (S63) 放射線一般及び治療<br>日本医学放射線学会専門医  |
| 高木紀人  | 泌尿器科医長 佐賀医科大学 (H2) 泌尿器科一般<br>日本泌尿器科学会指導医・専門医   |
| 佐藤 勇司 | 泌尿器科医師 佐賀医科大学 (H8) 泌尿器科一般<br>日本泌尿器科学会指導医・専門医 日本がん治療認定医                                   |
| 阿比留一  | 放射線科医師 福岡大学 (H2) 放射線科一般<br>日本医学放射線学会専門医  |
| 中島弘治  | 外科医師 長崎大学 (H17) 外科一般<br>日本消化器外科学会専門医   |
| 江頭智子  | 小児科医師 佐賀大学 (H15) 小児科一般<br>日本周産期・新生児医学会専門医  |
| 田中智子  | 産婦人科医師 佐賀大学 (H17) 産婦人科一般<br>日本産婦人科学会専門医  |

②協力型臨床研修病院及び研修協力施設 研修実施責任者

佐賀大学医学部附属病院

平川奈緒美 麻酔・蘇生学准教授

長崎大学病院

前村浩二 副院長



独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター  
橋本喜次郎 副院長  
医療法人天神会 新古賀病院  
川崎友裕 循環器科内科部長  
地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館  
藤田尚宏 総合教育センター長  
独立行政法人国立病院機構 長崎川棚医療センター  
宮下光世 院長  
長崎県五島中央病院附属診療所奈留医療センター  
津田俊彦 院長  
満岡内科消化器科医院  
満岡 聰 院長

(4) 募集要項

①研修医定員数：各年次3名、計6名とする。

(ただし、国立病院機構佐賀病院を研修協力病院として研修するものは除く)

②研修医の募集方法；原則として公募とし、マッチング方式にて募集する。

③研修医の応募手続き

応募先

必要書類

- 1、願書（当院所定用紙）
- 2、履歴書（市販のもの）
- 3、卒業見込み証明書、または卒業証明書（写しでも可）
- 4、国家試験合格証書の写し
- 5、医師免許証の写し

ただし、3月卒業見込みの者については4、5は不要

選考方法：面接及びマッチング方式

応募期間：平成29年7月1日より

(5) 研修医の処遇

①身分：臨床研修医（非常勤職員）

②勤務時間：月～金曜日 8時30分から15時00分

③休日：土日祝日、年末年始

④時間外勤務：原則なし

⑤当直：1年目副直、希望回数 3～4回／月 2年目当直 4回／月程度

⑥給与：31万円／月程度

⑦社会保険：健康保険、厚生年金、雇用保険に加入する

⑧宿舎：あり

⑨院内の研修医室：1室

⑤健康管理：年2回健康診断あり

⑥医師賠償責任保険：任意で加入

⑦学会、研究会：出席可、費用は原則として自己負担

(6) 研修修了の認定及び証書の交付

2年間の研修終了時に臨床研修委員会においてカリキュラム目標の達成度を判定し、研修修了と目標達成について最終判定を行い、臨床研修管理委員会委員長が研修修了書を交付する。（なお、その結果について臨床研修委員会委員長は厚生労働大臣に報告する。）

委員長は、臨床研修管理委員会による評価の結果、研修医が臨床研修を修了していると認めないときは、当該研修医に対して、その理由を付して、その旨を文書で通知する。